

# 花のお江戸を歩く会

## 通人の町・蔵前界隈を歩く

### 「浅草～駒形～本所～蔵前」散歩

緊急連絡＝09085831528(管理人)

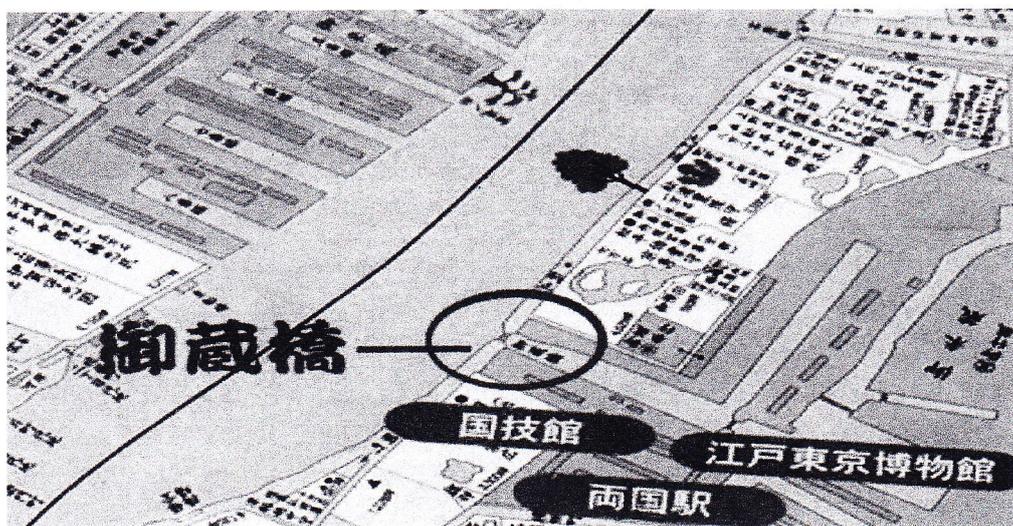
#### ＜散歩道のご案内＞

江戸時代、通人のことを十八大通とも言いました。義侠心に富み、しゃれっ気があり、吉原遊びに大金を使う、伊達男であるといわれました。「江戸っ子義質のお大尽」ということでしょうか。そんな伊達男の多くは蔵前の札差を商売とする人々に多かったようです。

今は、業務地化し江戸の面影は殆ど残っていませんが、かつては豪商や俳人・川柳・狂歌・浮世絵など江戸の著名な文人や芸術家などを育んだ粋な下町を想像力豊かにして散歩しましょう。ここがホントのお江戸かも？

#### ＜散歩道の順路＞

浅草花川戸交番広場→吾妻橋→勝海舟像→枕橋→隅田公園（藤田東湖碑・水戸藩邸跡）→牛島神社（江戸期の撫牛）→源森橋（スカイツリー撮影会）→清雄寺（老中酒井忠勝・二所の関部屋縁）→妙縁寺 T（夜鶴井銘の碑）→福厳寺（赤門寺）→桃青禅寺（松尾芭蕉縁）→篠塚地蔵尊（新田義貞縁）→本所中学校（王貞治母校）→高砂部屋→若宮公園 T→河竹黙阿弥終焉の地→北斎通り→野見宿彌神社（大相撲縁）→葛飾北斎生誕地→津軽藩神屋敷跡 T→江川太郎左衛門終焉地→八角部屋→江戸東京博物館→【ランチタイム】→徳川家康像→本所御蔵跡→安田庭園 T→船橋聖一生誕地→御蔵橋跡→両国橋→【隅田川テラス】→蔵前橋→首尾の松→浅草御蔵跡（十八大通縁）→天文台跡→法林寺（高嵩谷縁）→西福寺（江戸浄土宗四ヶ寺）→精華公園 T→浄念寺→川柳横丁→龍宝寺（柄井川柳寺縁）→蔵前神社（5代将軍綱吉公縁）→榎寺（宿屋飯盛縁）→都営地下鉄「蔵前駅」（解散）



## 《個別ガイド》

### ① 隅田公園(藤田東湖碑・水戸藩邸跡)

隅田公園は水戸藩下屋敷でした。江戸時代の半分ほどの面積です。公園内に水戸藩氏にして尊王攘夷論者の藤田東湖が水戸藩邸に幽閉中に読んだ詩「生気の歌の碑」があります。彼は安静の大地震で、水道橋東京ドーム近くの邸宅で命を落とし、志半ばにして世を去りましたが、彼の残した詩は水戸藩の尊皇攘夷派のバイブルとして受け継がれ、勤王志士達に多大な精神的影響を与えたようです。作家堀辰夫旧居跡の碑も立っている。→牛島神社(江戸期の掘牛)→源森橋(スカイツリー撮影会)

### ② 清雄寺(老中酒井忠勝・二所の関部屋縁)

寛英山清雄寺は本門佛立宗京都妙蓮寺末で、寛文2年(1662)、老中酒井忠勝が下屋敷内に建立し、自身が開基となって日崇上人に寄進した寺です。墓地には酒井氏の他、6世竹本佐大夫(義太夫)、名力士二所ノ関、横綱玉錦、大関九州山、玉の海、海光山などの墓があります。

### ③ 妙縁寺T(夜鶴井銘の碑)

14世紀、日蓮正宗第3祖日目上人の弟子である日尊師が浅草阿部川町辺に妙因寺として創建。1629年(寛永6年)、大石寺19世法主日舜上人により再興される。同寺院は、公家寺として知られ、朝廷との関係も深く、日野大納言等が大檀那となっており、その関係で、京都所司代の板倉勝澄とも関係があった。江戸時代、水源の少なく人口の多い江戸にとって、水は貴重品であったが、境内の井戸は人々に水を供給して「やかくいの井戸」と呼ばれ、その碑は墨田区の文化財となっている。相馬大作の首塚もある。

### ④ 福厳寺(赤門寺)

曹洞宗寺院の福厳寺は、牛嶋山と号します。福厳寺は、天文10年(1541)或いは延徳3年(1491)に吉祥寺二世大洲安充が創建したと伝えられ、門が朱色なので古くから赤門寺と呼ばれていました。この門は三代将軍徳川家光が父秀忠の追福のために寄進したものです。また、赤穂浪士大石内蔵助の縁者である、大石三平や原田きぬの墓があります。大石三平は、四国松山の松平家江戸家老で、横綱に住み、福厳寺の住職を禅の師として親しくしていたころから、三平は赤穂義士の吉良家討ち入りのため、参禅・聞法の集会と称して、当寺で義士に密談を行わせたり、このあたりの地理に詳しいことから義士討ち入りの手引きをするなど、かげにあつていろいろ援助していたといひます。

### ⑤ 桃青禅寺(松尾芭蕉縁)

この寺は、松尾芭蕉が寄宿したことで知られており、後に長谷川馬光により芭蕉が寄宿していた書院跡を芭蕉堂として建立されたそうです。それ以来、山号も芭蕉山といひます。寺号の桃青も芭蕉の俳号のひとつからもらっています。別名松尾芭蕉わらじ脱ぎの寺とも云われています。

### ⑥ 篠塚地藏尊(新田義貞縁)

この地藏尊は一統天皇の治世(993-996)、恵心僧都によって像刻されたと伝えられてい

ます。当時、北越地方に飢饉が発生していたことから、豊穰・繁栄が祈願され、たちまち飢饉を収束させたといわれます。

元弘3年(1333)、新田義貞は北条氏打倒のための兵を挙げましたが、苦戦を強いられました。当時姉ヶ崎に安置されていた地蔵尊の霊験あらたかなことを聞き及んだ義貞は、家臣の篠塚五郎政景に命じて地蔵尊を世良田、(群馬県)に迎え、みごとに鎌倉の北条氏を滅ぼしました。戦勝後、地蔵尊の霊夢に導かれた政景は、本所のこの地に地蔵尊を安置し、堂宇を建立しました。以来、世来田地蔵尊、または篠塚地蔵尊と呼ばれました。

その後、太田道灌がこの地蔵尊に延命山栄壽院の名を与え、徳川家光からも帰依を受けました。以来、安産の地蔵として江戸の人々に知れ渡り、毎月四の日の縁日には多くの参詣者でにぎわいました。大正12年(1923)の関東大震災の難は逃れましたが震災復興計画に基づき、地蔵堂以外の堂宇は現在の足立区竹ノ塚に遷座しました。→**本所中学校(王貞治母校)→高砂部屋→若宮公園T**

### ⑦ 河竹黙阿弥終焉の地

江戸から明治初期にかけ活躍した歌舞伎、狂言作者、河竹黙阿弥の終焉の地。河竹黙阿弥は文化13(1816)年2月3日、江戸日本橋に生まれ、天保6(1835)年五代目鶴屋南北に入門し天保14(1843)年には立作者となり二代目河竹新七を襲名し、歌舞伎俳優四代目市川小団次には「忍ぶの惣太」を五代目菊五郎には「弁天小僧」を書き有名になる。引退後、黙阿弥と改名した。生涯、約360編の作品を残し明治26(1893)年1月22日、76歳でこの地にて死去。お墓は中野区高田の寺町：源通寺にある。→**北斎通り**

### ⑧ 野見宿禰神社(大相撲縁)

野見宿禰神社は、墨田区亀沢にある神社です。野見宿禰神社は、当社の東側初代高砂親方の部屋があったとき、初代高砂親方の尽力により、元津軽家の屋敷跡である当地に明治17年(1884)に創建したといえます。当社は相撲の始祖・神様といわれる野見宿禰を祀り、現在に至るまで相撲協会や関係者の崇敬を集めています。

### ⑨ 葛飾北斎生誕地

江戸時代後期の浮世絵師、葛飾北斎はここ本所割下水(現在の亀沢町1、2丁目)で生まれました。奇抜な構図が人を驚かせる「富嶽三十六景」はよく知られています。北斎のほかに画狂人など30以上の画号を使い、生涯に93回引越をしたといわれます。彼の風景画や美人画は遠くヨーロッパのゴッホや印象派の画家たちに影響を与えました。彼は90歳で死ぬとき、「あと10年、せめて5年の命があったら、本当の絵描きになれるのに」と嘆いたといえます。墓は元浅草の誓教寺にある。

江戸時代後期の浮世絵師、葛飾北斎はここ本所割下水(現在の亀沢町1、2丁目)で生まれました。奇抜な構図が人を驚かせる「富嶽三十六景」はよく知られています。北斎のほかに画狂人など30以上の画号を使い、生涯に93回引越をしたといわれます。彼の風景画や美人画は遠くヨーロッパのゴッホや印象派の画家たちに影響を与えました。彼は90歳で死ぬとき、「あと10年、せめて5年の命があったら、本当の絵描きになれるのに」と嘆いた

といいます。→津輕藩上教師 T

#### ⑩ 江阿川太郎左衛門終焉の地

江川太郎左衛門英龍（ひでたつ・号は坦庵）は、享和元(1801)年伊豆韮山（にらやま）に生まれ、父の跡を継ぎ韮山代官となった。幕末最先端の技術と学問を海防に生かし、高島流砲術の隆盛に努め、韮山では反射式溶鉱炉の築造、品川台場の建設などに業績を残した。日本で初めてパンを焼いたことでも有名である。

英龍の江戸の役宅は、津輕家上屋敷西のこのあたりにあった。英龍は米国から帰国したジョン万次郎を召し抱え、この地で英語や航海術の塾を開かせたりもした。安政 2(1855)年 1 月 16 日に、この地で 55 歳の生涯を閉じ、韮山の本立寺に葬られた。→錦戸部屋八角部屋→江戸東京博物館→[ランチタイム]→徳川家康像

#### ⑪ 本所御蔵跡

本所御蔵は享保 19 年 (1734) 創設。もと竹木の倉庫だったところに建てられので御竹蔵とも呼ばれた。21 棟の米蔵棟と入堀りがあった。現在は蔵前国技館と江戸東京博物館を含む広大な敷地であった。浅草御蔵が主で本所が従の関係。当時は両国橋と吾妻橋のみが存在し、蔵前橋は昭和 2 年の架橋である。

#### ⑫ 安田庭園 T

もと常陸国笠間藩主本庄因幡守宗資により元禄年間 (1688~1703) に築造されたと伝えられる、隅田川の水を導いた汐入回遊式庭園です。明治維新後は、旧備前岡山藩主池田侯の邸となり、次いで安田善次郎氏の所有となりました。氏の没後大正 11 年東京市に寄附されました。関東大震災後、太平洋戦争を経て東京都から墨田区に移管され、全面的改修を行い、復元、開園しています。

#### ⑬ 船橋聖一生涯地

NHK 大河ドラマの第 1 作として放映された「花の生涯」の原作者である船橋聖一はここで生まれたようである。碑文はやはり作家の井上靖が書いたもの。→御蔵橋跡

#### ⑭ 百本杭跡

百本杭は、隅田川の現在の両国駅側の岸が浸食されるのを防ぐために打ち込まれた多くの杭のことで、隅田川は水量が多く、湾曲部ではその勢いが増して川岸が浸食されました。両国橋付近はとりわけ湾曲がきつく流れが急であったため、上流からの流れが強く当たる両国橋北側には、数多くの杭が打たれました。水中に打ち込んだ杭の抵抗で流れを和らげ、川岸を保護するためです。夥しい数の杭はいつしか百本杭と呼ばれるようになりました。→両国橋→[隅田川テラス]→蔵前橋

#### ⑮ 首尾の松

江戸時代、浅草蔵前の隅田川のほとりにあった松。吉原通いの舟の目印になった。ここを過ぎると今戸と吉原を結ぶ山谷堀りが直ぐで、吉原も目と鼻の先という目印であった、

#### ⑯ 浅草御蔵跡

浅草御蔵は、江戸幕府が全国に散在する直轄地すなわち天領から運んだ年貢米や買い上

げた米などを収納、保管した倉庫である。大坂、京都二条の御蔵とあわせて三御蔵といわれ、特に重要なものであった。また

浅草御蔵は、また浅草御米蔵ともいい、この米は、主として旗本、御家人の給米用に供され、勘定奉行の支配下に置かれた。

元和六年（1620）浅草鳥越神社の丘を切り崩し、隅田川西岸の奥州街道沿い、現在の柳橋二丁目、蔵前一・二丁目にかけての地域を埋め立てて造営した。このため、それ以前に江戸にあった北の丸、代官町、矢の蔵などの米蔵は、享保（1716～36）頃までに浅草御蔵に吸収された。江戸中期から幕末まで、浅草御蔵の前側を「御蔵前」といい、蔵米を取り扱う米間屋や札差しの店が立ち並んでいた。現在も使われて「蔵前」という町名が生まれたのは、昭和九年のことである。

### ⑪ 天文台跡

江戸時代後期に、幕府の天文・暦術・測量・地誌編纂・洋書翻訳などを行う施設として天文台がおかれていた。天明2年（1782年）牛込薬店（わらだな：現、新宿区袋町）から移転、新築された。正式の名を「領曆所御用屋敷」という。天文方高橋至時（よしとき）らが寛政の改暦に際して、観測した場所であり、その弟子には、伊能忠敬（ただたか）がいる。

### ⑫ 西福寺(江戸浄土宗四ヶ寺)

西福寺は元々、松平家・徳川家発祥の地である三河国松平郷（愛知県豊田市）にあった寺で、家康公が関東に入国する際、現在地に移転したといわれる。江戸浄土宗四ヶ寺の随一で、松平西福寺とも称された。当時と比べて規模は縮小したものの現在に至っている。

通りを隔てた隣にある墓地には、家康公の側室で、3女・振姫の母といわれる於竹の方の墓がある。於竹の方については詳しくはわかっていないが、甲斐国（山梨県）の出で、父親は穴山梅雪とも武田家臣の秋山虎康とも、あるいは武田信玄ともいわれており、天正8年（1580）には、のちに蒲生秀行に、秀行没後は浅野長晟に嫁ぐことになる振姫を浜松城で生んだといわれている（下山殿が母親であるとの説あり）。於竹の方は、寛永14年（1636）に没し、この西福寺に葬られた。

尚、境内には江戸中期の浮世絵師・勝川春章の墓もある。又、墓所の片隅の高さ2メートル余りの大きな墓碑の下には、戊辰戦争時に上野戦争で戦死した彰義隊士132人が合葬されているという。→法林寺(高嵩谷縁)→精華公園 T→浄念寺→川柳横丁

### ⑬ 龍宝寺(柄井川柳寺縁)

初代・柄井川柳の菩提寺。古くから「川柳寺」として知られていました。初代川柳こと柄井八右衛門は、龍宝寺門前の名主でこの地で今日の川柳前身である川柳評前句附が興りました。今日でも、初代川柳を偲び命日の9月23日の川柳忌や呉陵軒可有の忌日に川柳家が集まり、法要や句会を続けています。

### ⑭ 蔵前神社(5代将軍綱吉公縁)

徳川綱吉が山城国男山の石清水八幡宮を勧請したことをもって創祀とする。以来、社領

200石を寄進され、江戸城鬼門除け、徳川将軍家の祈願所として崇敬を受けた。

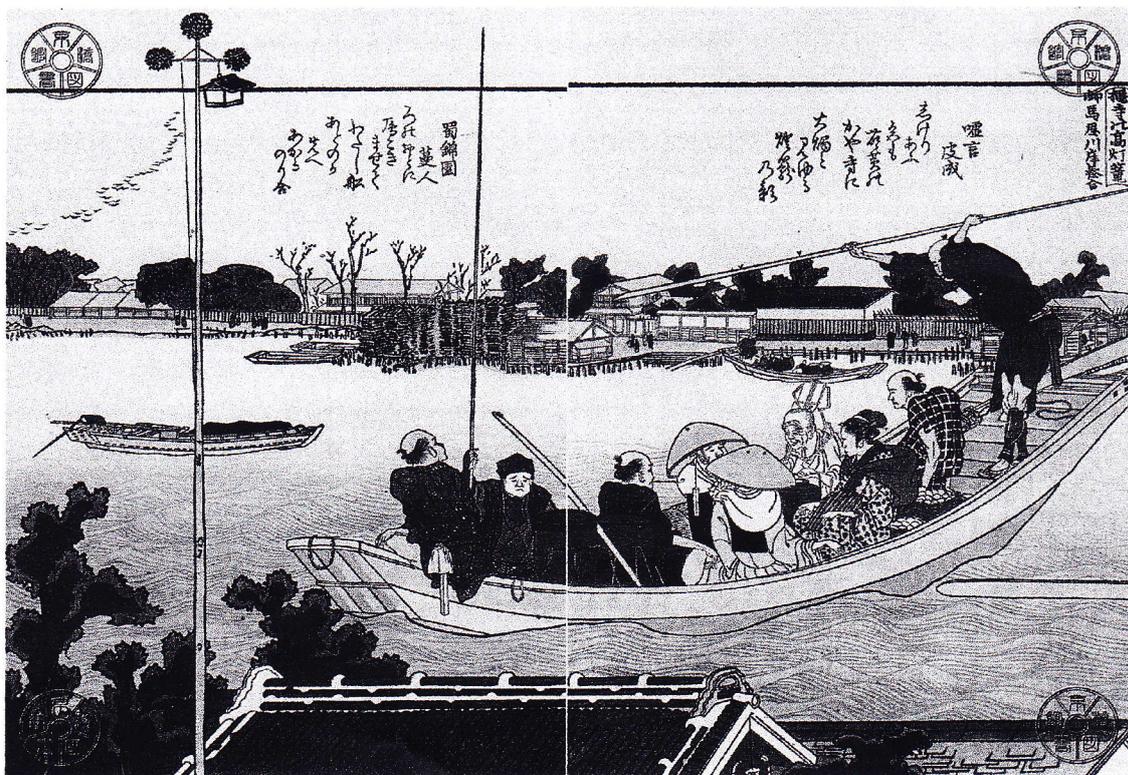
当時の正式な社号は石清水八幡宮だったが、一般には蔵前八幡、東石清水宮と呼ばれた。別当は新義真言宗の雄徳山大護院。天保12年(1841)には日本橋の成田不動(成田山御旅宿)が境内に遷されてきた。

また、宝暦7年(1757)以来たびたび勧進相撲が行われ、回向院・富岡八幡宮とともに三大拠点の一つであった。現在のような縦番付は、宝暦7年10月に当社で行われた本場所から始まったという。

## ②1 榎寺(藤沢修平・宿屋飯盛縁)

開山は慶長四年(1599年)で、境内に榎の大木が繁っていたことから榎寺と呼ばれていました。正式名は正覚寺でしたが、古地図には正覚寺の文字に添えて「榎寺ト云」と記されており、葛飾北斎の浮世絵「榎寺の高灯籠」や古典落語の「蔵前駕籠」にも榎寺の名が登場しています。

榎寺は藤沢周平著「海鳴り(下)」の中で、主人公の小野屋新兵衛が「御厩の渡し」で船を降り、料理屋の「有明」に立ち寄った後、有明の女中を榎寺近くで見送るという場面で登場しています。その他、江戸狂歌4人衆の1人「宿屋飯盛」の墓もある。→都営地下鉄「蔵前駅」(解散)



葛飾北斎「榎寺の高灯籠」